

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	安芸高田市立八千代中学校
-----	--------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・昨年度の生徒アンケートでは、「毎日朝食を食べる」と答えた生徒の割合が目標値の 90%を達成した。しかし、学年別に見ると目標値に届いていない学年もある。また、本校は小規模の学校であり、朝食を食べる習慣が定着していない生徒が固定化していることから、全体指導に加え、個別指導が必要である。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

食育に係る目標：学校・家庭・地域の連携を図りながら、健康を保持する基礎となる望ましい食生活や習慣を主体的に身につけようとする生徒の育成

[成果指標]・毎日朝食を食べると答える生徒を 90%以上にし、望ましい食習慣を理解して自ら管理する能力を身につけさせる。（目標値：90%以上）

- ・給食の残菜をなくす。（目標値：0%）
- ・生徒の食に関する意識を向上させる。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ）「毎日朝食を食べる」と答える生徒を 90%以上にする。

- ・家庭科で「中学生に必要な栄養について考えよう」「バランスの良い食事について考えよう」というテーマで授業を行い、朝食の摂取についても啓発を行った。
- ・朝食を食べる習慣が定着していない生徒と保護者に対して、養護教諭と連携し、個別面談・指導を行った。

【取組 2】（テーマ）給食の残菜をなくす。

- ・1年生合宿の日程に「給食センター訪問」を組み込み、給食センター見学を行った。給食を作る様子を見せたり、給食に関わる様々な人達の仕事内容や思いを伝えることができた。調理作業工程表や動線図等についても説明したり、実際に調理着を着せたりすることで、衛生面での気付きもあったようである。
- ・給食時間の指導では、生徒に必要な食事量について話をし、配膳の仕方についても確認した。
- ・保健委員による「地場産物紹介（市内生産者の紹介）」を毎月全クラスで行っている。
- ・1年生と3年生道徳にて「命をいただく（感謝）」の授業参観を行い、意識の向上を図った。
（2年生は昨年度実施済み）今後は毎年1年生で実施をするよう計画している。

【取組 3】（テーマ）生徒の食に関する意識を向上させる。

- ・給食の時間の指導、各教科と連携した食に関する授業を、積極的に行った。
（家庭科の食の分野、技術科の栽培、学活だけでなく、美術科、英語科、社会科、理科、道徳等においても、教科担任や学年担任の協力のもと、授業を実施した。）
- ・「チャレンジMY 弁当」（弁当の日）の取組を全学年で行った。
- ・JA 八千代地域女性部と連携し、みそづくりの取組を行ったことで、地域の食文化への理解につながった。
- ・指導内容をさらに深め、振り返ることができるよう、指導内容と関連付けた食育掲示板の活用を行っている。

- ・行った指導内容が全校生徒に伝わるよう、食育だよりに掲載している。双方向の交流となるよう、保護者からの意見を書くことのできる欄を設け、100万食プロジェクトに取り組んだ感想などをいただいた。
- ・1年生保護者対象の試食学習会や道徳「命をいただく」の授業参観を行い、家庭での食に関する意識の向上を図った。
- ・本校教職員全員で食に関する指導にあたることができるよう、校内研修を給食センターで行い、給食や食に関する指導の必要性について研修した。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

キャッチコピーの募集にあたっては、全校生徒が応募した。その中から保健委員が独自で選んだものを、生徒朝会にて表彰した。また、昨年度、家庭科では地場産物について学んだ3年生が、レシピの応募に取り組んだ。それらの取組を通じて、生徒の「ひろしま給食」実施への関心や、参加意識も高まった。給食センターからは給食だより、本校では保健だよりで保護者への情報提供を行った。

「ひろしま給食」を提供するにあたっては、今年度のレシピだけでなく昨年度までのレシピも積極的に取り入れた。本校は海から遠い地域の学校だが、安芸高田市内だけでなく、同じ広島県内の地場産物についても興味関心を広げることができている。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・朝食の取組の一環として保護者との面談を行い、朝食欠食の背景を知り、無理のない改善方法を探っていくことができた。
- ・昨年度の学活に続き、今年度の家庭科等の指導を行っている2年生に関しては、「毎日朝食を食べる」と答えた生徒は7月：84.0%から12月95.7%に上がり、目標値に届いている。
- ・給食の残菜は年間を通して0%を達成した。

【課題】

- ・今年度「毎日朝食を食べる」と答えた生徒は7月：78.3%、12月86.6%（全学年平均）であり、目標値に届いていない。学年に偏りがあるため、課題のある学年への取組や、個への指導に重点を置く必要がある。
- ・残菜はないが配分に偏りがあることで、必要量を摂取できていない生徒への指導が必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・朝食については、課題のある1年生を中心に、取り組んでいきたい。また、朝食を食べる習慣が定着していない生徒への個別指導も、養護教諭や担任と連携しながら、引き続き行っていく。
- ・「生徒の食に関する意識を向上させる」ためには、食に関する指導の組織的な推進が必要である。来年度も、校内での食に関する指導への理解を深め、栄養教諭自身が行う指導だけでなく、全教職員による給食指導や、教科との連携を進めていきたい。